

平成 23 年度

外国語活動 研究計画



尼崎市立園田東小学校

『学び合い、伝え合い、育ち合う、心豊かなたくましい子どもの育成』

知を
みがく

学び合い、伝え合う子ども

- ・ 学びを大切にし、協力しながら課題解決に取り組む
- ・ 伝え合う力を培い、主体的に判断する力と個性を伸ばす
- ・ よく考え進んで学習する子どもの育成と基礎学力の定着を図る
- ・ ねばり強く最後までやり遂げる意志力や学習習慣を培う

主として… 教科学習、図書教育、情報教育、防災教育など

生活を
ただす

育ち合う子ども

- ・ けじめある生活をする力を育み、規範意識を養う
- ・ 家庭と連携し、基本的生活習慣の定着を図る
- ・ 生活のあり方を考える自覚的態度を育成する
- ・ 主体的に生活を向上させる自律的な実践力を育む

主として… 生徒指導、健康教育など

心を
育てる

心豊かな子ども

- ・ 生命尊重・人間尊重の心を養い、助け合う
- ・ 良さや違いを認め合い「共に生きる」力を育む
- ・ 心の安定を図り、感動する心、思いやりの心を育てる
- ・ 伝統や文化を尊重し、我が国や郷土を愛し他国を理解する心を養う

主として… 道徳教育、外国語活動、音楽教育、性教育、特別活動など

体を
きたえる

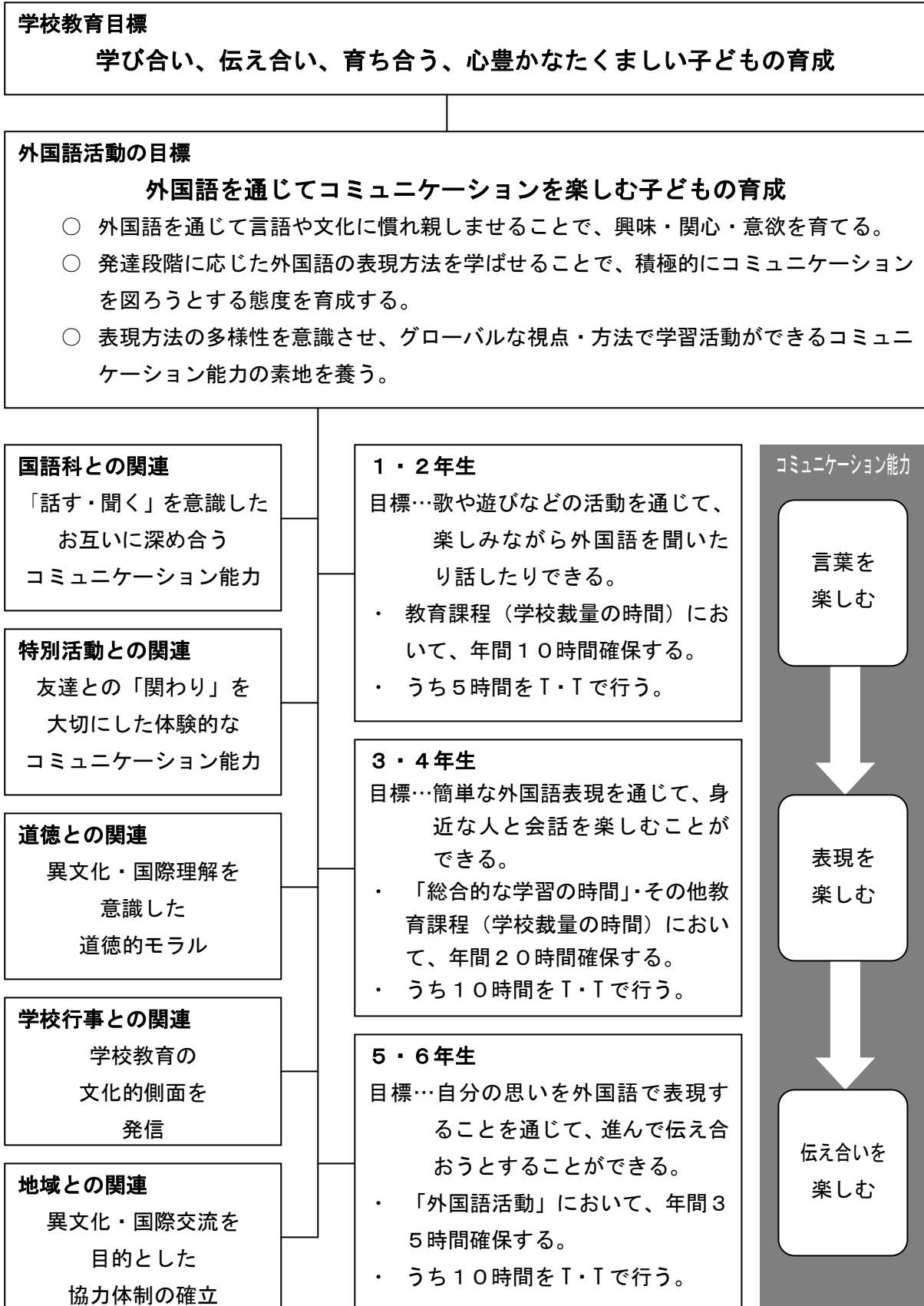
たくましい子ども

- ・ 体育科授業などを充実し、基礎体力を伸ばし、強い意思を育てる
- ・ 食の教育や保健指導を通して自己の健康や食に関心を持たせる
- ・ 生活リズムを改善し体力と気力を養い、健康でたくましい児童を育てる
- ・ 生活面と健康面での問題を解決する力を培う

主として… 体育科、保健教育、食育など

平成23年度 「外国語活動」 研究計画

1. 外国語活動全体計画（全体構造図）



2. 研究主題

「外国語を通じてコミュニケーションを楽しむ子どもの育成」

○ 主題設定の理由

本校は児童数が167名と少なく、小規模校である。大規模校と比較し、集団を通じた活動といった面ではデメリットも少なくない。しかし、むしろ小規模校であることをメリットとして受け止め、多学年にわたる一貫した指導を行うことが可能である。例えば、全校生が縦割りのグループを組み、遊びや遠足を行う「なかよし活動」。また、そのグループで給食を食べる「交流給食」。児童集会では、全校生が一丸となって活動する。体育大会では、低・中・高といった学団で競技や表現運動に取り組む。こうした多学年を意識させた学習活動により、他校に比べ互いの関わり合いが深い。その上、成長過程を子どもたち自身が感じ取れる学習形態が確保されている。このような本校の特色を活かし、外国語活動においても多学年にわたる長期的な教育実践を行える環境である。

コミュニケーション能力の低下傾向は、本校に限らず全国的な課題として捉えられているが、校内研究による国語科の実践と絡めて「学び合い」「伝え合い」「育ち合う」子どもの育成を目標に、コミュニケーションの新たなツールとして外国語を学ばせていく。その過程では、「習得」ではなく「楽しむ」ことに重点をおき、学習指導要領との整合性を図る。コミュニケーション能力の育成を「楽しむ」観点から学習させるために、低・中・高で「言葉を楽しむ」「表現を楽しむ」「伝え合いを楽しむ」と3段階に分け、それぞれに目標を設けた。具体的には、低学年で外国語に触れさせる機会を設け、中学年において場面を設定した表現活動を行う。そして、高学年でそれまでの積み上げを活かした外国語による体験的なコミュニケーション活動を行うという流れである。

また、地域と協力した学習活動も盛り込んでいく。具体的には、ALT 以外に地域の方をゲストティーチャーとして招き、英語に捉われない多様な言語・文化に触れさせる機会を児童に与えていく。学校として掲げる、「特色ある学校づくり」の一環としての役割も担うよう外国語活動の研究を進めていく。

3. 研究計画

平成23年度予定の研究発表大会に合わせて、平成21年度より3年間で本校の研究を軌道に乗せ、以降も研究の促進に努める。

1年目

- ・ 校内の研究体制・組織づくり
- ・ 学習の流れ検討
- ・ 指導案様式の作成・統一

2年目

- ・ 学習内容（トピック）の精選
- ・ 環境整備
- ・ 評価方法検討

- ・ 授業実践・研究
- ・ 地域との協力・連携
- ・ 実践記録データの作成 (CD-ROM)

3年目

- ・ 授業実践・研究
- ・ 研究大会
- ・ 以降の研究に向けての成果と課題検討

4. 研究実践

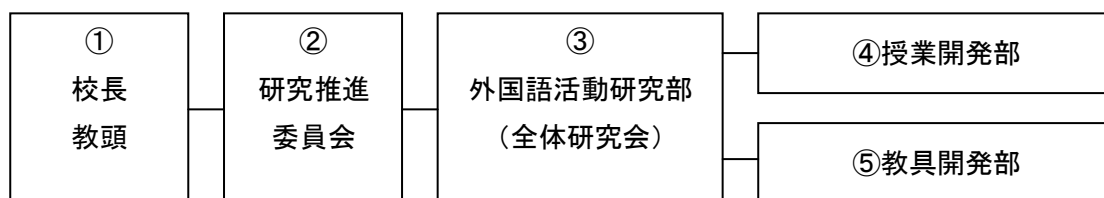
○ 校内の研究体制・組織づくり

校内での研究を、以下 A・B・C に基づいて円滑に行う。また、全体研究会（校内研修を含む）、研究部会、研究推進委員会を開き、情報の共有化、共通理解を図る。

※原則として、水曜日をそれぞれ次の研究会にあてる。

- ・ 全体研究会 月 1 回（学年・各部、大授業事後研究、その他研修など）
- ・ 研究部会 原則月 2 回（学年・各部の研究など）
- ・ 研究推進委員会 月 1 回（校長、教頭、教務、研究、各部の研推で構成）

A. 組織図



B. 各役割分担表

①	校長・教頭	校内研究体制の確立・サポート 中核教員の指名 研究全般の指導・助言 講師要請
②	研究推進委員会	校内研究の企画・運営 研修責任者 全体計画・年間計画の作成
③	外国語活動研究部 (全体研究会)	中核教員が中心となり運営 ④⑤を含む全体研究部会
④	授業開発部	主に授業（学習内容）開発を中心に活動 学級担任・その他授業者を主として構成する
⑤	教具開発部	主に教具（学習掲示・教室掲示）開発を中心に活動 専科を主として構成し、授業開発部との連携を図る

C. 学年団・専科

※授業開発部は基本的に学級担任であるが、専科による授業も可能とする
大授業担当者以外が研究記録部を兼ねるものとする

授業開発部	低学年 (1・2年)	中学年 (3・4年)	高学年 (5・6年)
教具開発部	専 科		

以上の研究体制・組織により、授業研究を行う。授業研究は、授業研究会（大授業）とオープン授業（小授業）の形式をとる。

・ **授業研究会（大授業）**

低学年・中学年・高学年でそれぞれ1回ずつ。

講師を招き、事後研究（全職員参加）を実施する。

・ **オープン授業（小授業）**

互いの研鑽を図るために、一人一授業を公開する。

指導案を全職員に提示し、所属学年団の者は必ず参観する。

他の学年団の者は、自由参観とする。

授業後参加できる者で事後研究を実施する。

参観者は、授業の感想を授業者に必ず提出する。

○ **学習の流れ検討**

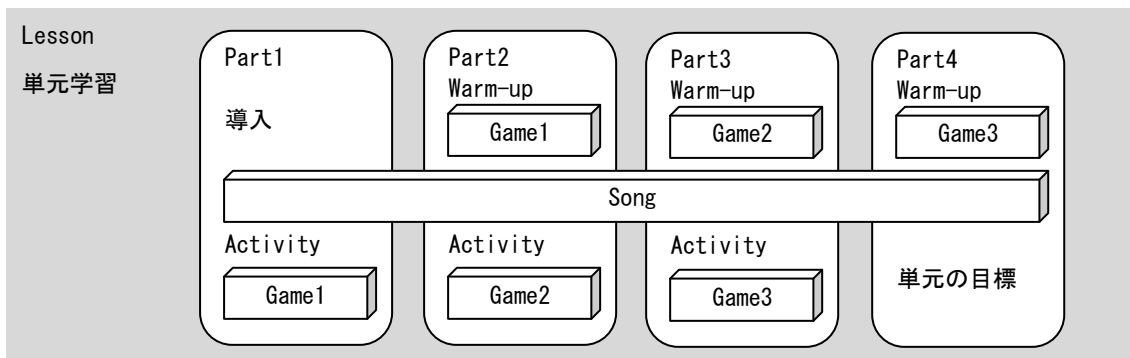
外国語活動研究部会で1時間の学習の流れを検討する。年間を通した全授業に共通する、導入(Greeting)→準備(Warm-up)→活動(Activity)→まとめ(Closing)といった流れの中で、継続して行わせる活動を取捨選択する。

導入(Greeting)のあいさつの扱い方であるが、How are you?以外に、What day is today? How weather is today?等の指導があり、どの学年でどの表現を扱うかも検討し、系統立てた指導ができるように計画する。

準備(Warm-up)・活動(Activity)は、主にチャンツ・歌・ゲーム等で構成する。単元の目標に沿って、必要な言語材料・英語表現を楽しみながら習得していけるよう場面に合わせてチャンツ・歌・ゲーム等を取捨選択する。

準備(Warm-up)では、前時の活動(Activity)を活かした形が望ましい。児童が直ちに準備(Warm-up)に入ることができる点、単元を通じて復習・反復練習ができる点、活動数が精選され、無理と無駄のない単元計画ができる点がメリットである。(下図参考)

以上の点を踏まえて、学習の流れを検討する。



○ 指導案様式の作成・統一

授業開発部を中心に外国語活動学習指導案の様式を作成・検討し、それを校内で統一する。
校内研究授業において、指導のポイントを指導案上で把握しやすくすることを目的とする。

指導案は、「外国語活動学習指導案例」を参考として作成する。

学習目標・評価規準の3つの観点を、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語への慣れ親しみ」「言語や文化の体験的な気付き」とし、評価規準に関しても記述方法の改良を図っていく。（※評価に関しては、評価方法検討で詳しく記述する。）

第 学年 外国語活動学習指導案

日時： 平成 年 月 日 () 校時 (: ~ :)

場所： 尼崎市立園田東小学校 年 組 教室

対象： 年 組 (男子 名 女子 名 計 名)

指導者： HRT

ALT

1. 単元名「 」

2. 単元目標

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

(外国語への慣れ親しみ)

(言語や文化の体験的な気付き)

3. 扱う表現・主な語彙

--

4. 単元について

児童観

教材観

指導観

5. 評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度

(ア)

(イ)

外国語への慣れ親しみ

(ウ)

言語や文化に関する気付き

(エ)

6. 単元計画（全 時間）

Lesson 2 学校あんないをしよう				
part	目 標	評価	主 な 活 動	扱う表現・主な語彙
1	・	(7)	・	
2	・	(7) (1)	・	
3	・	(1) (7)	・	
4 (本時)	・	(7)	・	
5	・	(1)	・	

7. 本時の目標

-
-

8. 準備物

9. 板書計画

10. 本時の展開

過程(分)	児童の活動	教師 (HRT)・ALT の指導・支援 ◆評価
Greeting (5)	1, あいさつをする。 Hello. Hello, how are you? I' m fine (happy/hungry...).	<ul style="list-style-type: none"> ・ HRT のあいさつに答える活動を通して、外国語学習の始まりを意識させるとともに、外国語を話しやすい雰囲気を作り出す。 ・ 全体で一斉にあいさつした後、一人ずつ発表させるなど、繰り返し練習させる。
Warm-up (10)	2, チャンツをする。 ♪ “The Hokey Pokey” ゲームをする。 ★” Simon says”	<ul style="list-style-type: none"> ・ right hand、left hand、right leg、left leg の順に練習し、最後にランダムにする。 ・ モニターに動作を表す画像を表示して、左右の区別がつきにくい児童を支援する。 ◆ right/left の判断をスムーズにすることができるか。 ・ 前時までの内容が定着しているか確認する。
Activity (25)	3, 本時のめあてを確認する。	
どの教室かわかるかな? What room is this?		
	4, どの教室でしょうクイズをする。 ★” What room is this?”	<ul style="list-style-type: none"> ・ プリントを配布し、ルールの説明をする。 ・ モニターに表示される指示を英語で発音し、どの教室を案内しているか考えさせる。 ・ 児童を半分に分け、一方がモニターを見ながら発音をし、もう一方はそれを聞きながら問題に答えさせる。
~For example~ Turn right. Go straight. Turn right. Go down (1st floor). Go straight. Turn left. Go up. Turn right. Go straight. What room is this? It' s (an) audiovisual room.		
Closing (5)	5, 本時のまとめをする。 6, 次時の内容を確認し、終わりのあいさつをする。 Good bye! See you.	<ul style="list-style-type: none"> ◆ モニターを見ながら方向を表す英語表現を発音できているか。 ◆ 方向を表す英語表現を聞き取ることができているか。 ・ 授業を振り返って感じたことをワークシートに書かせ、発表させる。 ◆ 本時の学習内容を自分なりに振り返っているか。

○ 学習内容（トピック）の精選

平成22年度より、全体の年間指導計画を作成し、それに沿って学習活動を進めていくこととする。年間指導計画には、学習内容（トピック）をまとめ、系統立てた指導が全学年に通じて行えるよう工夫する。

平成23年度より、前年度の学習内容を年間指導計画として各学年に引継ぎ、実践していく中で単元構成・学習の流れを改善する。特に、現段階でどのような学習内容があるのか全学年で共通理解した上で系統性を立てていく。

○ 環境整備

教具開発部を中心に校内の環境整備を行う。以下のような掲示物を作成する。

- ・ 校内掲示…教室標示等
- ・ 教室掲示…物の名前 教師の指示

教室標示は学級以外の特別教室、職員室、保健室等を含む全ての教室標示を外国語表記で示すものを作成する。教室掲示の物の名前とは、時計や筆記用具、時間割の教科名等教室にあり児童の目に入りやすいもの。教師の指示とは、「起立」Stand up. 「手をあげましょう」Raise your hand. 「静かにしましょう」Be quiet. 等、日常から教師（場合によっては児童）がよく使う熟語。これらを掲示物として表示することで普段の生活の場から外国語に触れさせるねらいがある。

平成22年度に作成した教師の指示には、よく使うものとそうでないものが出ている。また、英語で指示したい言葉・指示できる言葉が各学年の実践で出てきているため、どの学年でどの指示内容が必要かという観点で改良した。改良されたものは、各学年共通して使用していく。教師の指示だけでなく、児童同士で使えるような英語表現もある。Here you are. Thank you. You' re welcome. などがその例で、外国語活動だけでなく、他の学習・生活場面でも活用できる。

Classroom English

学年	あいさつ	
全	11. みなさん、こんにちは。	Hello, everyone.
全	元気ですか。調子はどうですか。(答え方)	How are you? I' m fine. / hungry / sleepy …
3・4・5・6	今日の天気はどうですか。	How' s the weather today?
3・4・5・6	晴れ(くもり・雨)です。	It' s sunny.
4・5・6	今日は何曜日ですか。	What day is today?
4・5・6	金曜日です。	It' s Friday.
全	また会いましょう。さようなら。	See you. Bye.
指示		
全	用意はいいですか。	Are you ready? Yes. / No.
全	立つ。(起立)	Stand up.
全	すわる。(着席)	Sit down.
3・4・5・6	席にもどりましょう。	Go back to your seat.
4・5・6	みんなで言ってみましょう。	Let' s say it together.
全	歌ってみましょう。	Let' s sing.
全	大きな声で話しましょう。	More big voice.

5・6	ゆっくり言いましょう。	Speak more slowly.
全	しっかり聞きましょう。	Listen carefully.
全	私の後についてくり返しましょう。	Repeat after me.
全	〇〇を見ましょう。	Look at 〇〇.
ほめる・はげます		
全	すばらしい。かんぺき。	Excellent! / Perfect!
全	よくできました。	Good job. / Good! / Great!
全	よくがんばりましたね。	Nice try!
全	心配しないで。	Don' t worry.
全	正解です。	That' s right.
全	いい考えですね。	Good idea.
全	おめでとう。	Congratulation!
全	もう一度。	Once more.
全	拍手しましょう。	Let' s give him(her) a big hand. Clap your hands.
かかわりの中で		
全	手伝ってください。	Help me.
全	どうぞ。	Here you are.
全	ありがとう。	Thank you.
全	どういたしまして。	You' re welcome.
全	いっしょにしようよ。	Let' s play.
活動の中で		
3・4・5・6	〇〇は英語で何といいますか。	How do you say 〇〇 in English?
全	わかりましたか。	Do you understand? Yes. / No.
全	やりたい人はいますか。	Any volunteers? Yes.
全	手をあげましょう。	Raise your hand.
全	時間です。	Time is up.
全	今日はこれで終わりです。	Let' s finish.

教室標示

教室名	Room name	教室名	Room name
1年1組	1st grade 1	職員室	Staff room
2年1組	2nd grade 1	校長室	principal' s office
3年1組	3rd grade 1	保健室	Health room
4年1組	4th grade 1	靴箱	Shoebox space
5年1組	5th grade 1	放送室	Broadcast room
6年1組	6th grade 1	事務室	Office room
図書室	Library	家庭科室	Home economic room
理科室	Science room	コンピューター室	Computer room
図工室	Art room	えいごりあんルーム (英語教室)	English room
音楽室	Music studio	多目的室 (視聴覚室)	Audiovisual room

○ 評価方法検討

外国語活動研究部会で評価方法の検討をする。評価方法には次のようなものが挙げられる。

- ・ 授業観察
- ・ チェックリスト（振り返りカード）
- ・ アンケート（質問紙法）

低学年…外国語活動の評価基準に従って評価する。

中学年…外国語活動の評価基準に従って評価する。また、総合的な学習の時間の評価にも含み、年間一回「外国語」で評価を文章表記する。

高学年…外国語活動の評価基準に従って評価する。

※低学年・中学年は、以下の表を参考として評価基準を設定する。

学年	教科	教科評価基準との関連性		
		コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化の体験的な気付き
中学年	総合	自己の生き方	主体的・創造的な態度	学び方・ものの考え方

平成22年度は、高学年以外は国語と総合的な学習の時間で外国語活動を取り扱ったが、時数面の問題で次年度以降このような取り扱いができない。そのため、平成23年度以降は、「学校裁量の時間」を利用した時数の確保を行う。

「振り返りカード」について、平成22年度は、低・中・高の評価基準に合わせ、自己チェックシートと1時間の感想を記述するワークシートを開発した。感想の記述は、教師側の意図と児童の実際の感想にずれが生じることが多い。「自分ができるようになったことは」「一番楽しかったことは」といった具体的な質問では、逆に記述内容に縛りができてしまうので、内容の自由性を残しつつ児童の学習の記録となるようなワークシート開発に努める。

外国語学習の目標は期待目標であって到達目標ではない。教科としての目標は「意欲・慣れ・気付き」であり、必ず習得させるべき言語材料はない。つまり、どのようにして「意欲・慣れ・気付き」を与えることができるかを前提に、各単元で目標を設定していく。そして、単元目標に沿って単元を構成する際、児童につけさせたい力として出てきた学習内容に合わせ、評価基準を作成する。

評価基準の作成に関しては、単元を通して3観点をできる限り意識し、必要に応じて評価項目数を増減させる。また、各評価項目が単元のどの授業で評価できるのかを指導案上に明記する。

ねん ぐみ なまえ

1. きょうのがくしゅうをふりかえてみましょう。
 (よくできた… 😊 できた… 😊 もう少し… 😊 に○をつけましょう。)

- ☆ がいこくごで、たのしく がくしゅう できた。 😊 😊 😊
- ☆ ともだち と、がいこくごで おはなし できた。 😊 😊 😊
- ☆ がいこくごを おぼえること が できた。 😊 😊 😊

2. きょうの がくしゅう で、いちばん たのしかったことは なんですか？

年 組 名前

1. 今日の学習をふりかえてみましょう。
 (よくできた… 😊 できた… 😊 もう少し… 😊 に○をつけましょう。)

- ☆ 学習した外国語をつかって楽しく活動できた。 😊 😊 😊
- ☆ 外国語をつかって、思いを伝え合うことができた。 😊 😊 😊
- ☆ 外国語の発音や意味に、気をつけることができた。 😊 😊 😊

2. 今日の学習で、一番楽しかったことは何ですか？

年 組 名前

1. 今日の学習をふりかえてみましょう。
 (よくできた… 😊 できた… 😊 もう少し… 😊 に○をつけましょう。)

- ☆ 学習した外国語をつかって楽しく活動できた。 😊 😊 😊
- ☆ 外国語をつかって、話したり聞いたりできた。 😊 😊 😊
- ☆ 外国語の話し方や意味に、気をつけることができた。 😊 😊 😊

2. 今日の学習で、一番楽しかったことは何ですか？

自己評価シート例

左上：低学年用

右上：中学年用

左下：高学年用

※ サンプルとして提案したワークシート。実際には、各学年で改良を加えて使用している。

○ 授業実践・研究

平成23年度の研究発表大会に向けて、平成22年度は授業実践・研究を主として取り組む。

- ・ 日々の実践記録を基にした個々の指導スキル向上に向けて

各学年、総授業数分の授業記録（または計画）を取り、指導略案の蓄積を行う。年間計画の学習内容（トピック）に合わせ、どのような教材・教具を用いて授業を行ったかを記録することで、指導者のスキル向上を図るとともに、次年度の指導の目安として活用することを目的とする。

平成22年度に、実践記録（授業記録）を予定通り蓄積してきたため、全学年でプロジェクト型単元の作成が概ね完了している。平成23年度の指導の目安として活用する。

全学年で系統立てた単元計画の改良を目指す。実践記録データの全学年単元一覧表を資料として、学年を越えた単元の系統性、それに伴う言語材料の発展性を検討する。

○ 地域との協力・連携

ALTの活用時数には限界があるため、地域との協力・連携を図り、T・Tによる指導をより充実させる。交渉は、校長・教頭が主として行い、校内に啓発する。

授業内容については、各担任と年間計画に沿って計画し実践する。尚、異文化・国際交流等ゲストティーチャーの特性を活かした授業実践に関しては、年間計画に沿わせる必要がなく、その取り組みを次年度の年間計画に活かす。

平成22年度に地域・保護者を対象に、ALTとしてボランティアを募集。2名の応募。平成23年度よりALTとして授業補助に取り入れる。

○ 実践記録データの作成（CD-ROM）

上記項目○授業実践・研究であげた、実践記録（指導略案）蓄積作業は、主として中核教員がその編纂作業を行う。学習指導要領が定める5・6年だけでなく、全学年が年間計画を基にした授業実践を行うため、本校オリジナルの指導書を作成する目的をもっている。

作成後の活用方法は、以下の2つである。

- ・ 授業実践が全学年を通して系統立てられているか確認することができる
- ・ 次年度の年間を通した授業実践の目安・参考となる

平成22年度の実践記録データを、平成23年度の年間計画・単元構成の基礎材料として活用する。